

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101765		
法人名	社会福祉法人 喜成会		
事業所名	グループホーム喜成会		
所在地	和歌山県和歌山市北野118-2		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070101765&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人の不安というものを理解したうえで、その緩和をしていくために人の手やぬくもりが大切と考えています。よって、支援者がいること、支援者がさりげなく関わることで、安心していただいて、「家じゃないけど、ここにおってもええなあ」と感じて頂けるよう、雰囲気づくりを大切にスタッフ全員が頑張っています。そして、事業所理念である「笑って、泣いて、人生つれもていこら」のようにともに支え合える関係であり続けたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、通所介護や訪問介護などを提供する高齢者総合ケアセンターみらいの5階にあり、見晴らしが良く遠くの山や川を一望する環境の中で、職員はホームの理念を大切に日々のケアに取り組んでいます。職員が知恵を出し合い検討した理念は、利用者に寄り添い喜怒哀楽を共にすることを大切に「笑って泣いて、人生連れもていこら」と謳っています。1日に少なくとも1回は、入居者と職員が輪になって、ゆっくりとした時間を共有することで、一緒に過ごす時間をもっています。職員は、男女のバランスがよく、様々な年齢層・経験年数で構成されており、そのため様々な考えや意見をケアに取り入れ、利用者の思いがそれぞれの角度から把握されケアに生かされています。また外部・内部を問わず職員研修の場が多く、専門的な意識を持ちながら、研鑽を重ねケアに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が構築した事業所理念「笑って、泣いて、人生つれもていこう」を見えやすい所に掲示し、毎朝ご利用者と職員で共有し、足りない部分もあるが、日々実践している。	職員が知恵を出し合い検討した理念は、利用者に寄り添い喜怒哀楽を共にすることを大切にしようと作られています。入居者が書いた理念が壁面に飾られることで皆の中に浸透し、方言を取り入れることで馴染みが増えています。毎朝声を出し、入居者と職員とで読み上げ確認し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣との日常的な付き合いは薄い。しかし、近隣の美化活動(ゴミ箱掃除・ゴミ拾い)に努めたり、自治会に入る・地域の行事に参加する等、交流に努めている。	事業所周辺には民家が多くなく直接的な関わりの少ない中、自治会の行事である地域の夏祭り、学校の文化祭などに参加し交流を深めるように努めています。また法人では、介護教室を開催するなど、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを積極的に行なっている。天気の良い日にはゴミ拾いを行なう等、近隣の美化清掃に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており地域の方々と状況報告を行い、意見交換している。今以上に意見を頂戴できるように働きかけていく必要あり。	運営推進会議は、家族、地域包括支援センター、自治会長、地区人権委員長、役所支所からの参加を得て2カ月に1回開催しています。パワーポイントを活用し、事業所の取り組みを分かりやすく見てもらいながら知らせるとともに、参加者から人員体制への意見や質問が出るなど意見交換がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連携は取れていない。	市役所支所職員の運営推進会議への出席があり、事業所の状況を知ってもらっています。市との連携は困難な状況であるが、支所職員は地域になじみが深く、担当者の交代があっても連携が取れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉による拘束も行なわないよう、職員同士声を掛け合いながら日々取り組んでいる。また、日中は非常階段やエレベーターはロックしておらず自由に行き来できる。	新任研修をはじめ、事あるごとに研修が行われており、身体のみならず言葉の拘束なども、スタッフ会議やミーティングなどを通し、常に意識し気をつけるように取り組んでいます。エレベーターや非常階段などの鍵の施錠はされており、自由に行き来できる環境にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践者研修や法人内研修等で学んだことを活かし、虐待を行わないように努めている。言葉の虐待にも注意している。また、管理者が現場に入り状況を把握している。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修や法人内研修等で学んだことを活かし、権利擁護に努めている。職場内研修において、他事業所との交流もあり、色々な知識や経験する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み等の際には、疑問等を聞き対応している。施設を見学してもらい説明し理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会時、日常の生活を話し要望をいただけるように話しかけている。頂いた意見・要望等、ケアプランに活かしたり、受診する等し納得していただけるよう対応している。また、家族会等で意見を頂ける機会を設けている。	家族会は年4回開催され、意見交換会もその時に行っています。家族会では事業所の運営状況などについても報告などなされ、家族からは率直な意見が出てなど、意見が言いやすい環境となっています。病気についての質問や意見があり対応するなど、運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を設けており、意見交換している。しかし、職員個々に意見の違いがあり、反映されていない時もある。	職員会議は月1回、ミーティングは毎日行われ意見が様々に出されており、現場の声に対しては、臨機応変に実践できるように対応しています。出された意見を基に勤務時間の変更などを行い、現場での意見を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場に入り、環境整備や状況把握に努めている。また、年2回行なわれる査定において個別面談等を行い、意見を抽出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を定期的に行なっており、学ぶ機会を設けている。また、社外の研修も掲示し募っており、積極的に参加できるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修ではグループワーク等もあり、他事業所と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、センター方式を活用しご本人の生活暦等情報収集を行い、ケアにつなげている。また、安心していただけるように関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを受けとめ関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご利用者の状態やご家族の状況を確認、情報収集し職員間で話し合い対応を工夫し提案させていただき、決定してもらえるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、共同生活の中で喜怒哀楽を共に利用者と寄り添える場を大切にしながら関係性づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に暮らしの出来事等を報告しご家族の思いを話していただけるようにコミュニケーションに努めている。また、機関紙である「つれもて日記」にて状況を伝えている。また、外出や外泊を円滑に行なえるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所や毎月21日はお大師さんの日ということをお憶えており、住みなれた場所の近くにあったお寺参りを行なっている。	利用者の声に耳を傾け、馴染みの人との関係や今までの習慣など状況の継続に努めています。お大師さんの日に昔馴染のお寺詣りをしたり、昔働いていた洋食屋への外食、顔なじみの美容院でのカット、以前の入所施設への訪問など個別に支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の生活暦の違いで難しい部分もあるが、共に生活する中で、出来る人が出来ない人を助ける等、ご利用者同士で関わりが持てるように職員が調整を行なっている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等ある際には面会や食事介助を行ったこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、本人の思いを把握するように努めている。思いを伝えられるご利用者は把握できているが、伝えられない利用者については足りない部分が多いのかもしれない。	契約時には家族から今までの生活歴や好み等を聞き取りを行い、センター方式を活用し意向の把握を行っています。また入居者との会話だけでなく表情や行動、様子を記録し、職員間で話し合うことで意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前のサービス業者からの情報提供やご家族の協力により、センター方式のシートに記入していただき把握に努めている。しかし、普段から生活歴等は頻繁に見るようにしていかなければならない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し個々の生活の中から変化等を抽出しスタッフ全員で共有し、ご利用者の生活のリズムを把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員出席で介護計画は作成できていないが、意見は事前に伝えられる。また、1ヶ月ごとにモニタリングを行い必要に応じて話し合いを行なっている。	入居者の意向や面会時などで聞いている家族の意見をもとに、ケアプランを作成しています。毎月モニタリングを行い、ケアプランは3か月に1度見直しています。日々の記録には、ケアプランに沿った援助内容と本人の言葉や職員の気づきなどが記録されケアプランに反映しています。また状況によっては医師からの情報をプランに取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の生活の状況は、手書きで個々のケア記録に記載し、職員で情報収集・共有している。個人記録の中にはケアプランの実践を書く欄あり、ケアプランと連動させるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを行い、その都度話し合いをし、出来るだけ柔軟に対応できるように努めている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の花屋や美容室を利用している。また、本人の声があれば、近くにあるパン屋に行ったり、買い物に出掛けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解を得ながら、かかりつけ医の受診を継続している。その際、ご利用者に代わってDr. に状況を伝達したり支援している。迅速な医療を受けられるように地域の病院に通っている。	入居にあたって、協力医と以前のかかりつけ医と選択をしてもらうようにしています。協力医は、毎週往診があり24時間対応可能で安心の医療体制に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は配置されていないが同建物内に看護師がいるので、いつでも相談はできるようになってはいるが、実際連携はあまりとれていない。その為、職員間で連携し受診等対応を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の変化があった時は、早めに受診している。入院時には出来るだけ職員が様子を見に行く等し、病院やご家族からの情報収集に努め、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面や口頭にて意思確認を行っている。また、その時の状況により柔軟な対応ができるように話し合っている。また、ご利用者が重度化してきており、次の受け皿に継ぐ段階にきているのかもしれない。ご本人やご家族と話し合い、安心してすごしていただけるように支援する必要あり。	重度化および終末期における意向確認書を家族と交わし、事業所の考え方を伝えていきます。実際にはその時々状況に応じて、家族、主治医と相談し、話し合いながら柔軟なケアに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが整備されている。また、消防署での緊急時対応の講習を受けたり、法人内研修において、緊急時の対応の講習を受け学び、職員間で話し合っているが不安はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ご利用者と共に避難訓練を行い、対応できるように努めている。しかし、地域との協力体制については難しいのかもしれない。	消防署の立ち会いの避難訓練と、独自の避難訓練を年2回行っています。地域への報告は、運営推進会議で報告がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導等にはさり気ない声掛けを行なう。また、着替えや入浴等プライバシーの配慮を行い、ご利用者に応じた対応に努めている。	研修を定期的に行い、職員はプライバシーや人権を大切にしたい支援を行うよう心がけています。誘導は耳元で声かけを行い、見守りはさりげなく対応するなど、一人ひとりに応じた対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事作り等、職員側で決めてしまっていることが多くなってきている。しかし、重度化に伴い自己決定できる方が少なくなってきているが、できるだけ決定してもらえようような声掛け、働き掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度が二極化してきており以前よりも職員ペースになってしまっていることが増えた。ご利用者の希望に沿った支援を行なえてない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい好みに合わせている。行きつけの美容室を利用したり、一緒に買い物に出掛けたり、好みの衣服を買いに行ったりと支援している。しかし、重度化に伴い職員サイドで決めてしまっていることも多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で、ご利用者の好みに合わせたり、一緒にメニューを考えたり、下ごしらえや盛り付け等作ったりと出来る方にはしていただいている。また、1つの食卓で皆と一緒に会話をしながら食事できるように努めている。	食材は職員と入居者が一緒に買い物に行き、準備や片付けも、一緒に話をしながら行っています。食卓も互いの顔が良く見えるようになっており、話もはずみ、楽しい雰囲気となっています。外食や梅見に弁当持参で出かけるなど、季節が感じられるような企画が立てられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行ない、栄養バランスを考え食材の工夫をしている。体重の増減を加味し食事量は個々に合わせて調整を行なっている。また定期的に栄養士に献立をチェックしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方については、声掛けしながら行っている。しかし、自らされる方には声掛けを行なっているが本人に任せているので毎食後できていないこともある。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、本人の表情や異変に気づき気持ちよく排泄できるように努めている。	個々の排泄パターン、表情や態度の把握に努め、できるだけトイレでの排泄を支援しています。排泄の自立にむけて、水分量、まわりの状況の見極めなどの対応を行い、失敗を減らせる支援に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を取っており、排泄の有無を把握している。適時、緩下剤を利用し排泄を促している。また、芋や果物等食物繊維の多い食材やヨーグルト・オリゴ糖なども利用している。運動面でラジオ体操等も行っているが、不足している面もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要に応じてシャワー浴等を朝に行なったりしているが、職員の配置状況等で夕方にししか入っていないことが多い。また、他のご利用者との兼ね合いもあり、本人の希望に沿えていない時もある。	入浴時間帯は夕方となっておりますが、入浴の順番や時間などは、出来るだけ希望に合わせて対応しています。菖蒲湯や入浴剤などで楽しむこともあります。週2～3回希望を尊重しながら入浴の支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて、居室で休んでもらったり、夜間に眠ることができるように、活動機会を設け、生活リズムをつけ、関わりを持つように努めている。しかし、不十分なこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量等薬についての理解を深めるよう努力し、状態変化がないか注意しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、外出や手芸等支援したり、生活行為をしていただき、感謝の気持ちを伝え、良かったと思えるひと時をつくらうと努めている。しかし、不十分なこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近寒い気候の為、機会は減っているが出来るだけ本人の希望に沿えるように個別・多人数での外出支援に努めている。しかし、個々に格差がまだまだある。	天気の良い日には日々の散歩、畑でいろいろな野菜を作り、水やりや収穫など行っています。近くへのスーパーへの買い物などの外出も頻繁に行っています。家族も一緒に遠足や花見に行ったり、小人数での外出など、希望を聞きながら対応しています。	

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方が1名おり、自分で買い物をして支払いを行なう機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば電話を掛けて家族と話したりする機会はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	5階に位置している為、季節感を感じにくいのが、窓に色々な細工をしたりボードに写真を貼ったりと季節を感じていただけるように工夫している。また、過ごすことが出来るスペースをいくつか設け、落ち着ける空間づくりに努めている。	広い廊下に古い箆笥を設置し観葉植物が飾られ、落ち着きが感じられています。所々にベンチや椅子が置かれ、休憩や会話が楽しめるように工夫されています。また目線に合わせてにコルクボードが設置され、季節感のある飾りがされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせるようなスペースをいくつか設けたり、ひとりになりたいときは、自由に個室に往来できるようになっている。また、必要に応じて見守り等を行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や写真立て等なじみの物を持ってきてもらい、居心地良く暮らせるようにしている。まだまだ工夫の余地はあるかもしれない。	冷蔵庫や箆笥、テレビ、椅子、机など使い慣れたものが置かれ居心地のよい空間になっています。また写真や観葉植物を飾ったりと、個々の個性が感じられる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを増やす為に洗濯物干しの位置を調整したり食事作りをするスペースを作っている。出来るだけ余計な物を置かないようにし、安全に生活をおくれるようにしている。		